

No. 383【2019年11月22日配信】

青森青年倶楽部図書館の誕生 (担当:工藤)

こんにちは! 室長の工藤です。

今回は久しぶりに「図書館」をテーマにします。

青森市の図書館の嚆矢といわれるのは、青森青年倶楽部の「図書部」といわれています。そして、青森県立図書館の創立50年を記念して編集された『青森県立図書館史』(以下、『図書館史』と略記)は、図書部は明治32年(1899)12月に「開設」と記し、また明治33年1月16日に「創始」とも記しています。一体、図書部はいつできたのでしょうか?

『図書館史』は図書部の設立に関して、後に図書部が改組して誕生する「私立青森図書館」が作成した「沿革一覧」という記録を根拠に叙述を構成しています。そして、図書部の「開設」は「翌三十二年十二月其(図書部一引用者注)発会式ヲ青年倶楽部内ニ挙グ」という記述に、一方「創始」は「同三十三年一月十六日ヲ以テ図書部ヲ公開セリ」に拠っているのです。すなわち、『図書館史』の記述は「発会式」=「開設」、「一般公開」=「創始」ということとなります。

ただ、『図書館史』ではこの図書部が明治32年11月11日に公布された日本最初の図書館に関する単独の法令である「図書館令」を受けて誕生したということを重要視しているのです。どちらにしてもその評価が揺らぐということにはなりません。

しかし、「図書部」の誕生について、『東奥日報』に注目すべき記事を発見しました。すなわち、明治30年4月下旬の時点で、青森青年倶楽部は図書部の設立を目指していたというのです(明治30年4月20日付)。そして、それから3年ほどの時間をかけて、図書の収集と整理をして蔵書数も数千冊となり、ついに明治33年1月12日に大町の事務所で一般公開の運びになったのでした(明治33年1月12日付)。これにしたがうと、「図書部」設立の動きは「図書館令」以前のものです。一般公開も1月16日ではないのです。ちなみに、発会式の記述もありますが日付は記されておられません。

では、「沿革一覧」と『東奥日報』どちらの記述に妥当性をみるべきでしょうか。私は『東奥日報』の方に軍配を上げます。理由はいくつかありますがひとつ紹介すると、これは『図書館史』でも指摘されているのですが、『東奥日報』でこれらの記事を書いたのは、青森青年倶楽部の発起人のひとりで、かつ東奥日報主筆の花田節であったと目されるからです。



ですから、来年の1月20日をもって青森市内の図書館は120年の歴史を刻むことになるのです。ちなみに、この図書部はその後の「青森市立図書館」のルーツとなるのです。

大町四丁目(明治末~大正初期、歴史資料室蔵)